

議 事 録

|   |   |           |   |           |   |    |                                  |
|---|---|-----------|---|-----------|---|----|----------------------------------|
| 会議名   | 令和4年度 第1回三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議議事録  |           |   |           |   |    |                                  |
| 日 時   | 令和4年5月24日(火) 午後7時00分～午後8時00分  |           |   |           |   |    |                                  |
| 会 場   | 三鷹市教育センター 二中研   |           |   |           |   |    |                                  |
| 出席委員  | 【委員】 神崎恒一、菊池健、望月諭、木之下徹、名古屋恵美子、齋藤貴彦、上遠野範子、道三啓吾、服部将志、望月謙治、吉本朋子<br>＜定員数11人中11人出席：有効＞               |           |   |           |   |    |                                  |
| 事務局   | 健康福祉部調整担当部長兼旧どんぐり山利活用担当部長兼地域福祉課長、高齢者支援課長、高齢者相談係長、他事務局2人   |           |   |           |   |    |                                  |
| 会議の公開・非公開   | 公開  |           |   |           |   |    |                                  |
| 傍聴人数  | 0人  |           |   |           |   |    |                                  |
| <p><b>1 開会</b></p> <p>【健康福祉部長兼市福祉事務所長小嶋より挨拶】<br/>委嘱状の配付を机上配付とした。三鷹市版チームオレンジの構築に向けてご意見を伺いたい。市民が自分ごととして認知症を考えられるような町になればいいと考えている。2年間の任期ではあるが、引き続きご協力をお願いしたい。</p> <p>【健康福祉部調整担当部長兼旧どんぐり山施設整備担当部長馬男木より挨拶】<br/>令和5年12月のオープンを目指して在宅医療・介護の推進拠点としての研究、人材育成、その実践の場としての生活リハビリセンターの3つの事業を進めている。その中でも認知症というテーマは必須だと考えている。また、第九期介護保険事業計画の策定も始まるため認知症施策についてご意見をいただきたい。</p> <p>【高齢者支援課長大高より挨拶】<br/>行方不明高齢者探索ネットワーク事業は本会議で検討し事業化したものである。少しずつではあるが会議の成果も出ている。議題に対して率直なご意見をいただきたく、引き続きよろしくをお願いしたい。</p> <p>【各委員からの挨拶及び会長、副会長の選任】<br/>会長に神崎委員、副会長に服部委員が選出される。</p> <p>【事務局からのお知らせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録の作成と公開について</li> <li>・本日の配付資料の確認</li> </ul> |   |           |   |           |   |    |                                  |
| <p><b>2 議題</b></p> <p>(1) 「令和3年度の認知症施策の活動報告について」<br/>普及啓発イベント、認知症サポーター養成講座、認知症アウトリーチ事業、行方不明高齢者探索ネットワーク事業の実績報告を行う。取組の実施回数などは減少が見られるが、事業の理解を深めることができ、包括と認知症初期集中チームとの連携がよりスムーズになるなど、進展も見られた。</p> <p>ア 質疑応答</p> <table border="1"> <tr> <td>委員<br/>事務局</td> <td>行方不明高齢者探索ネットワーク事業について問題点などはあるのか。なるべく個人情報を伏せる形で発信しているので本人の特定が難しいという意見はいただいている。警察との連携はスムーズにできている。</td> </tr> <tr> <td>委員<br/>事務局</td> <td>情報の発信は市内だけなのか。<br/>その通り。三鷹警察署内で行方不明届が出された方のみ、かよおっとの掲示板機能に情報を載せている。</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>当初は市民向けに情報を発信することを想定していた。情報公開の範囲</td> </tr> </table>   |   | 委員<br>事務局 | 行方不明高齢者探索ネットワーク事業について問題点などはあるのか。なるべく個人情報を伏せる形で発信しているので本人の特定が難しいという意見はいただいている。警察との連携はスムーズにできている。 | 委員<br>事務局 | 情報の発信は市内だけなのか。<br>その通り。三鷹警察署内で行方不明届が出された方のみ、かよおっとの掲示板機能に情報を載せている。 | 委員 | 当初は市民向けに情報を発信することを想定していた。情報公開の範囲 |
| 委員<br>事務局   | 行方不明高齢者探索ネットワーク事業について問題点などはあるのか。なるべく個人情報を伏せる形で発信しているので本人の特定が難しいという意見はいただいている。警察との連携はスムーズにできている。 |           |   |           |   |    |                                  |
| 委員<br>事務局   | 情報の発信は市内だけなのか。<br>その通り。三鷹警察署内で行方不明届が出された方のみ、かよおっとの掲示板機能に情報を載せている。                               |           |   |           |   |    |                                  |
| 委員  | 当初は市民向けに情報を発信することを想定していた。情報公開の範囲  |           |   |           |   |    |                                  |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | <p>など継続検討をしていくべき。<br/>相手方への働きかけも含め今後も努力を継続していく。</p> |
|-----|---|

(2) 「令和4年度の認知症施策の活動予定」

本会議や認知症にやさしいまち三鷹実行委員会、認知症サポーター養成講座なども通年どおり開催予定である。

(3) 「認知症サポーター活動促進事業（チームオレンジ）」

前回の会議では認知症当事者がボランティアをしたい、活動の際の声かけや付き添いをしてほしい、という二つのニーズがあったが、三鷹版チームオレンジは認知症当事者がボランティアをする場を整え、どのようにサポーターをその活躍の場に繋げていくのかということを考えていく。

まずは地域包括支援センターでその方がチームオレンジの取組にマッチする方であればボランティアセンターに繋げてもらうことを想定している。その方が本取組にうまくマッチングできなかったとしても、初期の認知症当事者の方と包括が早期に繋がることが出来る点も利点だと考える。

今後の課題としてはボランティアの受け入れ先の開拓、それと並行して認知症サポーターフォローアップ講座の内容の見直し、認知症当事者の意見を聞くことも必要だと考えている。

参考としてシルバー人材センターに話を伺ったところ、仕事をしている会員に認知症の症状が出たとき、会員同士でサポートした話を伺うことができ、本取組の参考にできる点も多いと考えられた。

ア 委員からの意見及び質疑応答

|     |  |
|-----|--|
| 委員  | 本取組の対象者に認知症の診断を受けたなどの条件はあるのか。また、医療機関の立ち位置が明確でないように感じる。   |
| 事務局 | 診断の有無にかかわらず、本人が物忘れが気になるという段階でも相談可能。医療機関への繋ぎが必要かどうか包括が判断することもできる。   |
| 委員  | 現状の相談ルートでは、ボランティアをしたい人が認知症になったらどうするのかという形のみになってしまうのではないかと印象を受ける。   |
| 委員  | 数は多くないが、介護保険のサービスがマッチしない方はいるので、そういった方に本取組を紹介していくことが出来る。シルバー人材センターの取組は大変参考になると考える。  |
| 委員  | 当事者の活躍の場で賃金がえられる仕組みがあれば、リタイアしたが就労意欲のある健常者も認知症初期の方も参加しやすいのではないかと。働いて賃金を得ることがやりにいい繋がるのではないかと。  |
| 委員  | もう何もすることがない、という相談を60～70代の方からされることがある。労働し賃金を得て明日への活力とする、という意欲が残っている方は多い印象を受ける。旧どんぐり山の利活用の一つとして働く場を整備するのも良いのではないかと。                    |
| 委員  | 賃金を得られる仕組みにするなら、その人が生活できる程度の給料は支払われる仕組みでないと意味がない。  |
| 委員  | 認知症の人だけ集めても仕事の間で見守り感が出てしまう。健常者も認知症の方も混ざって働ける場所は、お互いに支え合うことができるようになっていくのではないかと。そういう場所がどういうところにあるのか検討し、そういうものを市が多く作っていくことの方がいいのかもしれない。 |
| 委員  | 協賛という形で三鷹市内の一般企業の参画という視点も必要ではないかと。   |
| 委員  | 三鷹市では年を取っても働いて、支援する・されるではなくお互いが生き生きと支え合えるための仕組みを目指してほしい。   |

|              |   |
|--------------|---|
| 委員           | 認知症当事者の方には認知症「サポーター」ではなく「パートナー」が良いという意見もある。支援者の名称の変更も検討してほしい。   |
| <b>3 その他</b> |   |
| (1) 委員から一言   |   |
| 委員           | 本会議での成果を具体的に見える形に出来たら良い。本人主体の QOL 等。  |
| 委員           | 認知症のことを考えるということは今の自分たちを考える事に繋がる。  |
| 委員           | 健全な素晴らしい議論がなされていると感じている。最終的には、支え合える関係性に落ち着くベクトルを持っているといい。   |
| 委員           | 以前退院支援をした大島の方は地域の見守りが自然とできていたので、在宅生活が可能になった。自然に認知症の方を支える、三鷹市でもそうなってほしい。                                       |
| 委員           | 認知症を自分自身のことと考えると、大切なのは地域づくりだと感じている。   |
| 委員           | 自分から認知症を心配してクリニックに連絡してくる人は少ない。いろいろな人たちと協力して、変えていきたいと考えている。  |
| 委員           | 繰り返し徘徊してしまう方が安心して帰れるような世の中になればいい。現在はそれを介護サービスという形で提供しているが、みんなが徘徊している人を連れて帰ることができるといい。また、認知症の人という表現の難しさを感じている。 |
| 委員           | 病気や障害を持つことによって自己決定が出来なくなる方が多い印象。いろいろな職種の方から情報をいただいて、一番いい選択肢を本人に選んでいただくが、本当に自己決定しているのかなと日々迷いながら接しているのが現場での印象。  |
| 委員           | 認知症当事者をどのように受診につなげるかということや本人の診断後の葛藤には、とても繊細さを感じている。チームオレンジの取組が地域づくりも含めて成果として現れることを願っている。                      |
| 委員           | チームオレンジが、住民同士のつながりを作るような取り組みになり、認知症にかかわらず困った時に声を掛け合ったり支え合ったりするような機運を作る流れになるといい。                               |

議事録署名委員

2022年8月10日 神崎 恒一

R4年8月20日三鷹市西部地域包括支援センター服部将志